

パナソニック●KAIROSクラウド提案 テレビ熊本が 「KAIROSクラウド」で 長時間IPリモート中継を成功

テレビ熊本 (TKU) は2023年10月6日～9日に、九州地域3県にまたがる国内最高峰クラスの自転車ロードレース「マイナビ ツール・ド・九州2023」(ツール・ド・九州) のオンライン生配信を実施し、長時間、長距離にわたるロードレースの熱戦をリアルタイムで届けた。今回の中継システムで存在感を示したのがパナソニック コネクト「KAIROS クラウドサービス」(以下、KAIROS クラウド) だ。バイクカメラ映像を軸としたKAIROS クラウドによるリモートプロダクションの経験を技術局技術部・南 大 担当部長に聞いた。

(構成:高瀬徹朗・本誌ライター、写真提供:テレビ熊本)

● KAIROSクラウドで工程を大幅に簡略化

ツール・ド・九州は、福岡を出発点に熊本、大分と3県にまたがる国際自転車競技連合 (UCI) 公認のサイクルロードレースである。日本国内ではツアー・オブ・ジャパンと並ぶ国内最高峰と位置づけられ、今回が第1回の開催となる。3県をまたぐ3日間、毎日スタートとゴールの地点が変わるという中継には困難な条件のイベントだったが、TKUは「開催が検討され始めた4年ほど前から、社を挙げて中継を前向きに考えてきました」と南担当部長は言う。「高校生のサイクルロードレース大会をインターネット中継配信するなど、この大会に照準を合わせた準備を着々と進めてきました」とも話す。

一方、課題も浮き彫りとなっていく。「配信までの過程において、ベースバンドとIPのストリームを繰り返し切り替える工程に手間と時間、人員がかかりすぎていました。コスト面を含めた簡略化を検討した際、ピタリと刺さったのがパナソニック コネクトの『KAIROSクラウド』です」と導入に至った考えを南担当部長は話す。

● 衛星、FPU、モバイルの複数回線を活用

本線映像の8～9割を担ったのは、LiveUを積んだバイク撮影チームだ。スタート地点にSNG車、ゴール地点に

中継車、山岳などの定点チェックポイントに衛星中継 (スカパー「Sat-Q」および「スターリンク」) を配置し、バイク撮影映像は空撮用のヘリを経由するFPUも用意していたが、ほぼ全日にわたってフル活用したのはモバイル回線を使うLiveUだった。

「悪天候でヘリが飛べないケースを予め想定していたため、大きな混乱もなく乗り切ることができました。LiveUのモバイル回線が厳しいエリアは事前のロケハンで想定していたので、そのタイミングに合わせてVTRを差し込むなどの工夫で不自然なく中継映像を届けることができました」と南担当部長は回線デザインを説明する。

万が一のリージョン障害とKAIROSクラウドの入力数を考慮して、IPストリームで本社に送られたメインの信号のいくつかは、いったんベースバンドに戻してスイッチングした。「フルIP化は今後の課題です」と南担当部長は意欲を示す。

KAIROSクラウドを「とにかく『機材を減らせた』」ことが大きい。従来のハードウェア装置ではあり得ないほど、手間と人員を減らすことができました。今回の成功を経て局内の意識もさらに高まっており、次回の『ツール・ド・九州』はもちろん、番組制作でもフィードバックできる部分が多いと考えています」と南担当部長はメリットを挙げる。

テレビ熊本にとっても、KAIROSクラウドにとっても、極めて重要な成果と言える。



〔図〕「ツール・ド・九州」レース中継系統概略

